

行政視察報告書

貝塚市議会議長 食野雅由 様

令和 6 年 5 月 31 日

自由市民 出原 秀昭

田畑 庄司

議長 食野 雅由

令和 6 年 5 月 27 日 鹿児島県薩摩川内市

令和 6 年 5 月 28 日 鹿児島県鹿屋市

令和 6 年 5 月 29 日 鹿児島県肝付町

【5月 27 日】鹿児島県薩摩川内市を視察しました。

14:30～16:00 薩摩川内市役所

会派自由市民(食野議員・田畑議員・出原議員)と無会派(小谷議員)の 4 名の参加でした。

私たちの貝塚市は地球温暖化対策実行計画を作成し、2030 年度には 2013 年度比で庁舎建物等に係る温室効果ガス排出量を 50%削減することを目指しています。今後、市域全体での排出量の削減や、それに関連してエネルギーの地産地消も課題と考えられるので、薩摩川内市の取り組む「次世代エネルギー導入を通じたまちづくり」から、学ぶことを目的としました。

薩摩川内市は平成 25 年 3 月に「次世代エネルギービジョン」及び「行動計画」を完成させました。同ビジョンは①東日本大震災や福島第一原発の事故を契機にエネルギーが国民的な関心となった②同市は九州地域における基幹エネルギーの供給基地(原子力発電所や火力発電所が立地)として重要な役割を担っている③将来の少子高齢化の進展等の課題が顕在化しているなどを背景に、市内に内在する課題を解決できる「市民が喜ぶエネルギー面での処方箋」を提示するとともに、次世代エネルギーの利活用等による「エネルギーのまち」づくりを加速することをめざしたものです。

同市の取り組みの真剣度は、同ビジョン作成のために、企画政策部内に「新エネルギー対策課」を新設し、経済産業省から対策監級(部長職)を招聘して強力な人的体制を整え、予算の優先配



分を行ったことからもうかがえます。市内に立地する中小から大手まで企業を回って協力も呼びかけました。

出来上がったビジョンは3つの方向性を打ち出しています。①安全・安心・快適な市民生活の実現(市民生活)②エネルギー源と地域の資源を有効に活用した産業振興(産業活動)③エネルギーのまちとして充実した基盤の整備(都市基盤整備)です。この方向性に基づいて、すでに終了したものもありますが、多様な事業が取り組まれています。それらの中でも印象的なものを以下に紹介します。

(1) エネルギーの使い方にも配慮した生活様式の確立

1. 薩摩川内市スマートハウス(事業終了)は、次世代エネルギーに関する具体的な設備等を市民に提示し、意識啓発を図るために、実際にスマートハウスを建設し、創エネ・蓄エネ・省エネを体験する施設でした。
2. 天辰地区スマートタウン整備計画は、整理事業地を民間企業に売却し、「21世紀の低炭素社会」に向けた新しいタウンの整備を目指すものです。再生可能エネルギーを活用したゼロエネルギーハウスや防災設備の整備をすすめ、一般住居、レストラン、集会所、認定こども園などの建設が進んでいるとのことです。

(2) エネルギーの市民意識の向上

1. 次世代エネルギーフェアは、ビジョンへの幅広い市民の参加、普及等のために、年1回程度のペースでイベントを実施しているもので、イベント内の「展示・体験コーナー」「電気で走る乗り物試乗会」「親子エネルギー・工作教室」「eスポーツイベント」などは人気を集めている様です。
2. 地球にやさしい環境整備事業補助金は、温室効果ガス削減及び次世代エネルギー利用促進を図るために、また、災害に強いまちづくりのため、創エネ・蓄エネ・省エネ設備等を導入する市民に対しての補助金事業です。令和5年度実績は①蓄電システム(65件、641万円)②蓄電システム＋太陽光同時設置(68件、1315万円)③ZEH(8件、189万円)で合計141件、2145万円とのことです。
3. 公用車EV導入事業

(3) 市民活力によるエネルギーの自給自足モデルの構築

1. 総合運動公園防災機能強化事業は、総合運動公園を再生可能エネルギー等による独立電源等(太陽光発電、蓄電池等)を活用して「防災機能強化」を図るもの。設備は九電みらいエナジーと20年間のリース契約を結び、リース料は発電電力の売電で相殺して実質負担ゼロを予定している。

(4) 市内資源を活用した地域型産業の振興

1. LED街路灯導入事業・「メイドイン薩摩川内LED灯」販路開拓事業は、市民アンケートに寄せられた「街灯が少なく夜が暗い」という困りごと解決と市内企業の産業振興を目的としたもの。市内18事業者・2学校の産学連携で開発・製造を行いました。太陽光発電パネルと蓄電池を備えたLED街灯は、防犯・防災に役立っているとのことです。
2. 「薩摩川内市竹バイオマス産業都市構想」推進事業は、放置竹林や竹害等の地域課題である「竹」の利用で、産業振興、雇用創出、地域振興を目指すものです。企業と連携し、竹

紙を手始めに、産業資材となる竹セルロースナノファイバーの製造、用途開発などに取り組んでいます。

※これら以外にも、薩摩川内市の取り組みは多数ありますが、割愛します。

○薩摩川内市の視察を終えて

薩摩川内市の取り組む「次世代エネルギー導入を通じたまちづくり」として、平成 23 年にそれまでなかった「新エネルギー対策課」を企画政策部に新設し当時の市長からの依頼、様々な方の協力のもと経済産業省から対策監級

(部長級)で出向者を迎えるなど人的体制を整えています。それによる実効性と価値のある「次世代エネルギービジョン・行動計画」の策定と予算を優先的につけるとともに、国の補助も積極的にうけています。こういった国を含めて全庁的・横断的な組織改編は先進的であり非常に学びあるものでした。



【5 月 28 日】鹿児島県鹿屋市を行政視察しました。

10:00～12:00 鹿屋航空基地史料館

会派自由市民(食野議員・田畑議員・出原議員)と無会派(小谷議員)の 4 名の参加でした。

鹿屋市には、太平洋戦争時に 3 つの飛行場が存在し、日本で最も多くの特攻隊が出撃した歴史があり、館内には旧日本海軍創設期から第二次世界大戦にいたるまでの貴重な資料の



ほか、特攻隊員の遺影や遺書などが展示されています。その他にも、海上自衛隊の活動状況も紹介されています。第二次世界大戦末期、鹿屋海軍航空基地からは 908 名、串良海軍航空基地からは 363 名の海軍軍人が特攻隊員として南方に出撃し、若き尊い命が失われました。日本で最も多く特攻隊員が飛び立った地が、この鹿屋です。小説「永遠の 0」は映画化もされ、ドラマや漫画にもなり、戦争映画のジャンルの中で現代の若者たちにも広く知られています。その小説の中に出てくる、主人公・宮

部久蔵の話のモデルになった方の一人が、特攻隊員の一人「大石正則」さんだと言われています。ここ航空基地史料館には、その大石さんの写真がありました。彼らの手紙をじっくり読み、彼らを偲んで冥福を祈ることが、彼らへのせめてもの供養となり、平和への祈りになると感じました。

○鹿屋航空基地史料館の視察を終えて、

鹿屋に行ったら、必ず訪問していただきたい場所で無料です。史料館の外にはいろいろなタイプの飛行機が展示されており、館内では戦争に関する展示と現在の海上自衛隊の活動や機械の展示が見られます。戦争に関する展示の所では、戦争の記憶は辛いけれども後世にしっかり残していかなければいけないと思いました。零戦の展示は凄い迫力で、コックピットの中も見ることが出来ます。特攻隊の展示では見るのが辛くなり胸が詰まりましたが、改めてこんな事を二度と起こさないようにしなければいけないと考えさせられました。

14:00～15:30 鹿屋市役所

会派自由市民(食野議員・田畑議員・出原議員)と無会派(小谷議員)の4名の参加でした。

本年3月に策定された貝塚市地球温暖化対策実行計画(区域施策)では、期間は、2024(令和6)年度から2030(令和12)年度までとし、本計画の削減目標では、国や大阪府が実施する施策と本市で実施する施策によって市域において期待される削減効果を踏まえ、2030(令和12)年度に2013(平成25)年度比で46%以上の削減を目標とし、2050(令和32)年の「長期目標」ではカーボン・ニュートラル社会の実現を達成目標とします。

本市内において設置される再生可能エネルギー発電設備について、事業者が計画段階において検討すべき事項として、市民の安全・安心の確保のため、災害の防止や生活環境の保全、良好な景観の保全を図る配慮事項等を示し、再生可能エネルギー発電事業と地域との良好な関係が構築されるよう適切な管理を促すべく他市の事例を学ぶことを目的とした。



その中でこの度の行政視察に係る質問とその回答を記します。

- (1) 鹿屋市内の太陽光発電、風力発電の状況及び今後の計画について
令和4年度時点における鹿屋市の太陽光発電と風力発電の状況は
太陽光発電 6,970(内、市有施設等 38) 風力発電 1
市域の再生可能エネルギーの発電量は増加をつづけており、また、鹿屋市における再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは、太陽光発電については現状量の約1.7倍、風力発電については約8倍となっている。
- (2) 再生可能エネルギー、メガソーラー等大規模設備の設置申請について
令和3年11月に「鹿屋市再生可能エネルギー発電設備の設置に関するガイドライン」を策定して以降、令和6年4月末時点までに市が把握している設置件数は13件です。
- (3) 太陽光発電、風力発電誘致がもたらした市への好影響について
市として発電施設の誘致は行っておらず、また市内に所有する全ての発電施設を把握しているものではないことから具体的な好影響の有無は不明ですが、発電設備の設置

数は年々増加していることから、当該設備に係る固定資産税収の増加や、再生可能エネルギーに関する住民の関心度向上に寄与していること等があるとのことでした。

(4) 太陽光発電、風力発電による環境への影響について

一部の太陽光発電設備に関して、設置場所における排水処理が十分でなく、雨水が隣地に流出するケースがあり、風力発電に関する環境への影響については特に生じていなかったとのことでした。

(5) 条例や市の体制など、太陽光発電、風力発電関連の対策について

太陽光発電設備の設置数増加に伴い、近隣住民からの相談や苦情が市によせられるようになっていることから、引き続き設置者等に対してガイドラインの周知・啓発をおこなうとともに、関係法令を所管する各課と連携し、市民の安全・安心の確保や、災害の防止、生活環境の保全、良好な景観の保全を図るよう、設置者等に適切な管理を促すとのことでした。



○鹿屋市の視察を終えて

貝塚市では、令和6年3月29日に「貝塚市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と、地域における自然的・経済的・社会的状況に応じた、気候変動への「適応策」について推進し市域の脱炭素化をはかりますと、いいながら推進のみでガイドラインがなく、規制をふくめた対応策いわゆる関係法令を所管する各

課と連携し、市民の安全・安心の確保や、災害の防止、生活環境の保全、良好な景観の保全を図るよう、設置者等に適切な管理を促すことに取り組まなければならないと感じました。

【5月29日】鹿児島県肝付町を行政視察しました。

10:00～12:00 内之浦宇宙空間観測所

会派自由市民(田畑議員・出原議員)と無会派(小谷議員)の3名の参加でした。

JAXA(宇宙航空研究開発機構)の施設の一つで、山の地形を利用して造成された台地に機能的に建物が配置されている、世界でも珍しい特色のあるロケット打上げ場です。日本国内のロケット打ち上げ施設としては種子島宇宙センターと並ぶ存在です。建設当時、世界のロケット発射場は平地にしかなく、内之浦宇宙空間観測所は、世界初の山地にたつロケット発射場でした。これまで1970年(昭和45年)の日本初の人工衛星「おおすみ」をはじめ、数々のロケットや科学衛星・探査機が打ち上げられています。敷地内には宇宙科学資料館があり、ロケットのしくみや宇宙研究の歴史などを知ることができます。当初は、東京大学宇宙航空研究所附属施設として開所され、文部省宇宙科学研究所(ISAS)の

付属の研究施設となり、更に発展して現在の組織に至っています。小惑星探査機「はやぶさ」やイプシロンロケットの打ち上げ成功で注目が集まっています。本年3月13日に東京のベンチャー企業が開発した小型ロケットが、和歌山県串本町にあるロケットの発射台上から打ち上げられると話題になりました。残念ながら直後に爆発して打ち上げは失敗しました。こうした中、日本の宇宙開発の歴史を学習し、ロケット自体を視察することを目的としました。

○内之浦宇宙空間観測所の視察を終えて
意外と知られていないですが、無料で自家用車でドライブしながら内覧できます。JAXAの内之浦のロケットセンターでイプシロンも打ち上げられています。打ち上げを見た人は病みつきになるとのことで、空港からはなかなか遠いですが眺めもよく観測施設の巨大さは圧巻で、宇宙のスケールに少しだけ触れたような感じがしました。

